

美術で学ぶイタリア語

このテキストは二部構成となっています。前半四章は、皆さんが絵画を通して徐々に必要な言葉を学び、イタリア語を理解し、表現できることを目的としています。後半は、作者や時代、作品ジャンルや手法の異なるイタリア美術10作品を取り上げ、その紹介、描写法、歴史、当然ながら様式をも総合的に分析したものです。

❖ 第一部：第一章－作品データ

美術作品を分類する際に使われる語句を勉強しながら、イタリア美術を学びましょう。絵画の主要なデータを得る際に使われる言葉を理解するためにこの章での言語エクササイズは大変役に立ちます。

1. この作品を知っていますか？この絵について一緒に話しましょう。
2. この絵と同じ意味を持つ言葉はどれでしょうか？
3. 第2問の中で知らない言葉はありますか？教師に質問してその言葉の意味を理解するようにしましょう。

美術用語について このテキストを学習するにあたり皆さんはイタリア語で説明した美術専門用語と常に向き合うこととなります。これらの専門用語を日本語に訳したい場合に備え、各章の総合問題末尾の**演習**でその章に出てくる全ての美術用語の訳を書けるようにしましょう。

4. 枠内に書かれた言葉を使って質問に答えましょう。これは....と言います、等。
5. 文章を読み、正しい言葉を選びましょう。
6. 練習問題5を再読し、質問に答えましょう。

練習の終わりには参照**演習**としてその章に出てきた語彙や文法に関する記載があります。

7. 一致する絵画のジャンルを各絵の下に書きましょう。
8. これらの絵を見て共通するものは何でしょうか？
9. 文章を読み、質問に答えましょう。
10. 正しい答えを選びましょう。これは何を意味していますか....
11. 主要な絵画技法を知っていますか？ 一致する絵画技法を次の絵の下に書きましょう。
12. どういうものに描かれているか、その画材と右列の絵画技法を結び付けましょう。
13. 以下の質問に一致する言葉を枠の中から見つけましょう。

14. モナ・リザに関するデータを完成させましょう。

この章で学んだことは.... 各章の終りにはその章で学んだ主要な内容や用語についての要約が必ず記載されています。

美術についてのレッスン 各章の終りには美術についてのレッスンが記載されており、これにより皆さんがこの章をよく理解したかどうか、又ここで学習したことをうまく使えることかどうかを確認します。第一章での演習問題の目的は、美術作品のデータを用い質問欄を埋めることでその作品を深く理解することにあります。

❖ 第二章 - 美術作品の描写

肖像画の中で描かれている体形や衣装、ポーズを通してその人物の見分け方を学びましょう。更にここではキリスト教の図像における幾つかのテーマも習得できます。

1. 例1に見習い、下の言葉を使って作品についての情報を完成させましょう。
2. 描写を読み、一致する人物の名前を書きましょう。
3. 左列の言葉と同様の意味を持つ言葉を右列から選び、結び付けましょう。
4. 第2問での描写の中から言葉を選び、次の表を完成させましょう。
5. それらはどこですか？絵をよく見て、正しい位置を選びましょう。
6. これらの人物像の顔はどのように描かれていますか？絵と言葉を結び付けましょう。
7. システィーナの聖母の絵をよく見て、正しい答えを選びましょう。
8. 文を読み、次の言葉を使って文章を完成させましょう。
9. 設問に *si'* か *no* で答えましょう。
10. 設問に合った正しい答えを選びましょう。
11. この人物は誰でしょう？左列の問いに対する正しい答えを右列から選び、結び付けましょう。
12. 質問に答えましょう。
13. これらの絵をよく見ましょう。システィーナの聖母の図像と同じテーマを扱っている絵がありますが、それはどれでしょう？
14. 同じテーマを扱った三枚の絵を探して、ここに書きましょう。
15. 枠内に記載した図像内の人物を割り出しましょう。

■ *美術についてのレッスン

このレッスンは絵を理解し、絵について表現できるかどうかを確認する練習を目的としたものです。

1. 下の短い説明を読み、二枚の肖像画のどちらに該当するかを答えましょう。
2. モナ・リザの身体の各部位を枠内の言葉で表現してみましょう。
3. 正しい言葉を選び、この文章を完成させましょう。
4. 設問に *si'* か *no* で答えましょう。
5. モナ・リザの肖像画を表現するのにどの形容詞が相応しいと思いますか？ 選びましょう。
6. モナ・リザの背景をよく見て、風景にどのような要素が取り入れられているのかを書きましょう。
7. どのような種類の風景ですか？ 答えを選び、その理由を説明しましょう。
8. どの季節に、又一日のどの時間帯にレオナルドはこの風景画を描いたと思いますか？ どうしてそう思いますか？
9. 今度は皆さんの番です。あなたのお気に入りの絵を選び、その絵について表現してみましょう。

❖ 第三章—絵画についてのテキスト

絵のエピソードやその絵が語ろうとしていること、又その様式に触れている短いテキストを通して美術作品を知りましょう。

1. テキストを読み、この絵のデータについて下記の欄を完成させましょう。
2. この絵はどのようなことを表現しているのでしょうか？
推測する前に“ウルビーノのヴィーナス”のタイトルについて考えましょう。
3. 絵をよく見て質問に *si'*か *no* で答えましょう。
4. 上記の説明に一致する部位の絵を選びましょう。
5. 記載されている言葉を使って絵を表現してみましょう。
6. 人物のポーズをよく見て正しい答えを見つけましょう。
7. 正しい答えを選びましょう。
8. ヴィーナスを描いた他の作品を知っていますか？ 少なくとも3作品を挙げ、その作品の中でヴィーナスがどのように描かれているのか、どのようなポーズをとっているのかを説明してみましょう。
9. 絵についてクラス内で一緒に話し、枠内の空欄を完成させましょう。
10. 文章を読んで、質問に答えましょう。

ウルビーノのヴィーナス—前半

1538年ウルビーノ大公グイドバルドII世・デッラ・ローヴェレは画家ティツィアーノにこの絵を注文したが、おそらく若きジューリャ・ダ・ヴァラーノ嬢との結婚を記念してのことだと考えられる。実際のところ美術研究家の中には

絵に描かれたヴィーナスの身体は理想的なものであり、顔はまさにジューリヤ・ダ・ヴァラーノそのものであると言う者もいる。加えてヴィーナスが纏おうとしている、背景奥の侍女の肩にかけられた衣類はローヴェレー族のシンボルカラーの青と金色であるからだ。

このことは、ヴィーナスがたった今ローヴェレー族の一員となり、その家のシンボルカラーを身につける正当性を得たばかりと言うことを意味しているのかもしれない。

11. 一緒に話しましょう。

12. ウルビーノのヴィーナスの後半部分を読みましょう。

ウルビーノのヴィーナス—後半

多くの美術研究家がこの絵は結婚の寓意であり、各部位の図像はそれが意味するものや暗示するものを巧妙に表現していると言っている。

妻を愛と美の女神であるヴィーナスとして表現することはつまり、幸せな結婚生活を送るためには妻は美しく、官能的で且つ忠実であるべきだと言うことだからだ。実際絵に描かれたヴィーナスは自分の美しさや官能性を自覚し、おそらく夫に違いない観察者を誘い込むように見ている。ヴィーナスの足元の子犬はすやすやと眠っており、これは部屋に部外者がいないことの表れで、観察者はこの宮殿にいる身内なのである。従ってこの女性が裸体でかように官能的なポーズを取っているとはいえ、彼女はその子犬のように忠実で、身に付けた真珠の耳飾りのように穢れのない妻なのだ。このヴィーナスはただ自分と夫の喜びのためだけに内輪のくつろぎの中で官能的になっている。しかしヴィーナスが手に持ったバラの花は残念ながら早々に萎れてしまうシンボルであり、バラの花同様に肉体的喜びは時と共に消えていくものだからその喜びだけを考えるのではなく、肉体的喜びを通して子を持ち家庭を作るべきだとここで伝えているのである。又長持の中の何かを探している女の子の存在は、家庭を作ると言うこの結婚の目的を暗に示すものである。

13. 10問と12問の文章を再読しましょう。

研究者たちが絵についてこのような解釈に至ったのはどういう手掛かりからでしょう？

14. 正しい答えを選びましょう。

15. この絵には多くのシンボルがあります。左欄のシンボルに一致する意味を右欄から選び、結び付けましょう。

16. ヴィーナスはどのような宝石を身につけているのでしょうか？気付いたものに印をつけましょう。

17. ウルビーノのヴィーナスの絵をよく見て、各考察に相応しい形容詞はどれでしょうか？

18. 様式についての問題です。文章をよく読んで、正誤を答えましょう。

ティツィアーノの色彩

ティツィアーノは色使いの点でとりわけ注目に値する画家である。色調は16世紀ヴェネツィア絵画の独特な絵画技法であるが、彼はその技法において色調の巨匠と言われるほどだからだ。この絵画技法は、光と影のコントラストを生み出すために暗い色彩と明るく光沢のある色彩それぞれを薄く重ね塗りしながらグラデーションを作り上げていく手法である。このようなキアロスクーロ（明暗法、光と影のコントラスト）は、配色された色彩が調和し、コントラストを作り出すと同時に、色調主義の絵画において空間に奥深さをもたらして遠近感を、また図像に量感や可塑性を与え立体感を生じさせる効果をもたらしている。このことからティツィアーノの作品の色彩は、彼の絵画制作上での基本的要素なのである。

19. 美術専門用語を使って表現しましょう。左列の言葉と一致するものを右列から選んで結び付けましょう。

20. 他の色調主義派の巨匠を知っていますか？名前を書きましょう。

21. これはウルビーノのヴィーナスから着想を得た絵です。相違点と類似点を挙げてみましょう。

22. ティツィアーノのこれらの作品のタイトルを推測してみましょう。

23. ティツィアーノへのインタビュー

返事に相応しい質問を書いてみましょう。

☆ *ティツィアーノについてもっと知りたいですか？インターネットで検索し、芸術家の伝記に“私のメモ”として書きましょう。

テキストの巻末に本書で取り挙げた全画家について自分のメモを自由に書き込めるページがあります。

■ *美術についてのレッスン

“システィーナの聖母”に戻りましょう。この絵については第二章で簡単なデータや図像表現など既に学びましたので、ここでは絵についてのエピソードや絵の表現内容と様式の解釈を通してこの絵の分析を完全なものにしましょう。

1. 次のテキストを読んで質問に答えましょう。

2. 皆さんは既に第二章でこの絵の場面描写を行いました。ここでは下欄の言葉をヒントにして自分の言葉で、例えばこれは誰ですか？どういうポーズです

か？何をしていますか？などを説明してみましょう。

3. 絵をよく見て、絵について話し合しましょう。

4. テキストを読んで、質問に答えましょう。

システィーナの聖母

ラッファエッロが描いた光景は革新的な要素を多く取り入れていることから“聖会話”を扱った伝統的な図像画に倣ったものとは異なる。まず、聖母は座らずに立っており、その全体像が初めて描かれたのである。加えてその聖なる光景は緑色のカーテンが開いた劇場の舞台上に現れているようで、聖母の見事な出現を演出している。天界とこの光景を見つめる信者たちの地上の世界はカーテンや小天使が頬杖をつく木の欄干によってはっきりと分けられているものの、二つの世界は互いに触れ合っている。

確かに、聖シクストゥス一世は絵の外側に居る信者たちを指差して、聖母が強いまなざしで彼らを見つめているにも拘わらずその祈りを聞くように彼女に求めているようだ。ラッファエッロは聖会話に信者たちを引き込み、こうして彼らを参加させ、天界へと近づけているのである。

同様の聖図像は更に人間に似ており、実際光輪のある者は誰もいない。小天使たちは元気の良いおどけた子供のように表され、聖人たちは信者のために祈りを捧げているようで、そしてとても美しく威厳のある聖母は簡素な衣服を纏い、装飾品は何も付けずに裸足で歩き、ただ神々しい光に包まれているだけである。しかし聖母の人間らしい簡素さは天上の美しさで補われており、ラッファエッロは自分の描く聖母全てに稀有な理想美を備えさせたのである。

宗教美術

聖母マリア、イエス・キリスト、聖人、殉教者、天使など図像学上正確なシンボルとして見分けのつく宗教的**主題**の絵はすべてこの美術ジャンルに属す。又イエス・キリストの誕生や十字架上のキリストなど宗教上の出来事を表すものもこのジャンルである。このような聖画像は何世紀もの間にカトリック教会によって厳密な**図像テーマ**に集成されており、容易に見分けられるように大体同じような図像が繰り返し描かれている。実際、カトリック教会は誕生当初から美術を用いてキリスト教信者に教義を理解させ教え、信仰や敬神に導いたのである。

5. システィーナの聖母の絵をよく見て正しい答えを選びましょう。

6. 様式に関する問題です！テキストを読んで、正否を答えましょう。

ラッファエッロの構図

ラッファエッロの他の全ての作品同様に、*システイーナの聖母*も人物像や色彩、輪郭や光の釣り合いが見事で、大変調和のとれた構図により特徴づけられている。ラッファエッロはこのような絵の構成要素を用い、奥行きを作り出すことで場面の背景に実在するような空間を作り出したのである。

そしてその空間にバランスよく、しかし無理のない形で調和を取りながら人物像を置き、その像を浮き上がらせるために色彩のさまざまなグラデーションを用いてしなやかで柔らかな効果を作り、同時に量感をもたらしたのである。この絵の色調は概して寒色であるが、赤と黄を施した部分は光り輝き寒色の色調に生氣を与えている。

人物像は、特に女性像であるが、甘く詩的な表情の顔つきも、優美でさまざまなポーズも、彼女たちは大変美しくエレガントである。従ってラッファエッロは、信者たちを信仰へと導く目的の宗教的テーマを用い、絵に登場する聖像を人間化させることで天界を人間の世界に近づけ、天界を重視したそれまでの様式を変えようとした。同時に彼独特の絵画様式を用いてルネッサンス美術のテーマである美や調和、均衡や完璧さそのものの概念を伝えているのである。

7. 下の文章はどういう効果について言っているのでしょうか？
8. この絵についてどう思いますか？ワンフレーズで書いてみましょう。
9. 神秘的な人物.... ラッファエッロのモデルです。インターネットで検索し、ラッファエッロのモデルになった人物の名前や話を見つけて、ここに全部書いてみましょう。
10. ラッファエッロのこれらの作品のタイトルを推測してみましょう。

❖ 第四章ーイタリア美術それぞれの時代と様式

ここではイタリア美術の主な時代と様式の名称について学びます。特にルネッサンス美術の幾つかのテーマを分析します。

1. これらの作品を見て、正しい答えを選びましょう。
2. 枠内の年代を入れて文章を完成させましょう。
3. 左列の問いに対して右列から正しい答えを選びましょう。
4. モナ・リザの肖像画とこれらの肖像画を比較しましょう。
5. 質問に答えましょう。
6. 質問に答えてみましょう。
7. 文章を読んで、質問に答えましょう。

ルネッサンス

ルネッサンスは15世紀初頭にフィレンツェで始まり、この地を起点として16世紀に入り数十年間イタリア全土及びヨーロッパに広まったイタリア芸術と文化の時代を言う。

ルネッサンスと言う名称は、この時代新しい芸術は生まれず、“古典芸術”、つまりギリシャ・ローマ文明の古代芸術が“再生”したことを指すものである。実際ルネッサンス期の全ての芸術家それぞれが我流で古代芸術のスタイルや形式、構図の調和性や特にギリシャ・ローマの古代神話のテーマを模倣しながら研究し、ヒントを得ていたのである。

ルネッサンス期のもう一つの大きな革新事は、芸術家たちが美術を自然や自分たちが生きている現実の世界を知るための方法として考えたことである。自然や現実の世界を絵の中に正確に描くためにはそれがどのように作られているのかを注意深く観察しなければならなかったからだ。このように美術を通して現実の世界を知ろうとした探求例の一つが遠近法の発明である。これは絵に描かれた風景の空間に奥行きがあるような錯覚を起こさせる具象技法である。

実際この遠近法を用いることでルネッサンス期の芸術家たちは絵の中に現実空間に似た空間を見事に作り出している。

ルネッサンス芸術の他の基本的特徴は、人間への興味、そして世界を知り理解し、征服する人間の能力への興味である。ルネッサンス期において人は世界の、そして芸術の主人公となり、だからこそ各人の容貌を写し取り、感情や人格までも掴み取りながら写実的な様式で描かれたのである。

8. 一緒に話しましょう。
9. 美術専門用語を使って表現しましょう。...次の言葉で文章を完成させましょう。
10. 左列の名前と一致する時代を右列から選びましょう。
11. イタリア美術の他の絵画様式名や芸術運動名を知っていますか？一致する時代の欄に名前を書き入れましょう。

■ *美術についてのレッスン

絵を歴史的且つ様式的に関連付けられるように、同時期の絵画を様式の点から結び付けている要素について考えましょう。

1. 絵と日付を見て、いつ描かれたものか答えましょう。
2. これらの絵はいつ描かれたものでしょう？一致する年代の横に書きましょう。
3. 左列の世紀と一致する年代はどれでしょう？結び付けましょう。
4. 無関係の絵はどれでしょう？次の絵の中には同時代に描かれ、ルネッサンス

様式の絵が2枚だけあります。どれでしょう？

5. 次の絵の中でルネッサンス様式のものはいくつありますか？ルネッサンス美術の特徴的要素をいくつか含んだ手掛かりを辿りながらその絵を見つけましょう。
6. *東方三博士の礼拝*は時代を問わずに多くの芸術家によって描かれた図像テーマです。この絵について話し合みましょう。
7. 次の絵は全てルネッサンス期に描かれ、同じ主題を扱っていますが、画家はそれぞれ異なっています。各絵に見られるルネッサンス様式の要素（練習問題5を参照してください）を示しましょう。
8. 聖ゲオルギオスとドラゴンの話を知っていますか？インターネットで検索し、質問に答えましょう。
9. 次の絵をよく見て下さい。これらは聖母子像と言う同じ主題を扱っていますが、描かれた年代も様式も画家も異なっています。質問に答えましょう。

❖ 第二部－異なった時代と様式のアート作品の分析

◆ 1. テオドーラ皇后と女官たち

1. 作品をよく見て、これについて話し合みましょう。
2. 次のテキストを読んで、作品のデータを完成させましょう。

ラヴェンナのサン・ヴィターレ教会にあるこの大きなモザイク画（421 x 280 cm）は無名の芸術家たちにより6世紀に作られ、宗教儀式が執り行われている最中のテオドーラ皇后の豪華な行列を描いたものである。このモザイクの真正面に同じような場面の別のモザイク画があり、これはテオドーラの夫ユスティニアヌス一世を描いている。
3. モザイク画をよく見ましょう。どの人がテオドーラ皇后か分かりますか？*si'*ならその根拠は？
場面の背景や人物のポーズ、オブジェを考えてみましょう。
4. この場面は何を意味していますか？どのような宗教儀式が執り行われているのでしょうか？推測してみましょう。
5. 正しい答えを選んで、この場面を描写してみましょう。
6. 次の文章を読んで、質問に *si'*か *no* で答えましょう。

注意！青色の箇所は繰り返しになりますので以下の作品では訳されていません。

テオドーラ皇后と女官たち

この場面は宗教儀式中のテオドーラ皇后と女官たちを描いたものである。当時ラヴェンナで最も重要だと考えられていたサン・ヴィターレ教会のミサのた

めに皇后は宝石をちりばめた金杯をこの儀式で奉納している。全ての人物像は宮廷の厳格な階級制に従って描かれているが、皇后は一番背が高く、皇帝夫妻の色である真紅のマントを纏い、豪華な宝石を付け、普通は聖人か天使にしか見られない光輪があるから容易に見分けられる。加えて皇后のマントの折り返しには東方三博士の図柄がある。これは、皇帝夫妻がこの教会に奉納した進物に象徴的な価値があり、東方三博士が赤子イエス・キリストを唯一無二の神のようにみなし持ってきた進物同様に重要であることを明白に暗示しているのである。

7. 設問 6 の文章を再読し、質問に答えましょう。

* 歴史上の祝賀描写のジャンル

このような古い絵画のジャンルの主題は重要な人物や歴史上の出来事が記憶に残り、賛美されるように描かれることにある。例えばテオドーラ皇后のモザイク画には（実際には行われなかった）宗教儀式が描かれ、万人が理解し得る象徴的な出来事を通して人物の重要性を称賛しようとしているのである。

8. モザイク画の様式をよく見て、*si* か *no* で答えましょう。

9. 一致するものを結び付けましょう。

10. 美術専門用語を使って言いましょう。.... 次の言葉で文章を完成させましょう。

11. 様式についての問題です！テキストをよく聞いて、文章中の様式に関する部分に印をつけましょう。それからテキストを再読し、答えをチェックしましょう。

テオドーラ皇后と女官たち

“テオドーラ皇后と女官たち”のモザイク画はイタリアのビザンティン美術の中で最も美しい作品例の一つである。このようにビザンティン美術と言われるのはこの美術が4世紀にビザンティムの街（現イスタンブール）に生まれ、15世紀までおよそ1000年間続いたからである。ビザンティン美術は総体的に宗教色が強く、実際のところ基本的にその時代の人々の生活に根付いたキリスト教の宗教的テーマ（イエス・キリストや聖母マリア、聖人など）の描写が殆どであった。このような特徴はサン・ヴィターレ教会のモザイク画にも明らかに見てとれる。神に由来する地上の権力の象徴である皇帝夫妻は聖なる人物像として描かれており、厳かに正面を向いて立つポーズは単調で型にはまった図柄となっているからだ。要するに皇帝夫妻は本物の人間像として描かれてはおらず、神々しい姿をしているのである。背景や宝石、壮麗な衣装も又ビザンティン美

術の典型的な表現で、これは 1000 年の間変わることのなかったビザンティン様式の主要な特徴である。

12. この作品をどう思いますか？ワンフレーズで書いてみましょう。

歴史の話を少しばかり...

4 世紀に神聖古代ローマ帝国は二分された。ビザンティム（別名コンスタンティノープル）を首都とする東ローマ帝国と、最初はローマ、次にラヴェンナ（395 年から 751 年まで）を首都とする西ローマ帝国とである。従ってテオドーラ皇后のモザイク画が作成された時代はラヴェンナが西ローマ帝国の首都だったのだが、ゴート族の侵略者たちからイタリアを解放し、両帝国の統一を望んでいた東ローマ帝国皇帝のユスティニアヌス一世その人がこの地を治めていたのである。ユスティニアヌス一世はイタリアの解放に成功したものの、彼の死後領土征服を目指したさまざまなゲルマン民族侵攻の時代が到来し、ローマ帝国に決定的な終末をもたらすことになったのである。

13. 謎めいた人物像... 文章を聞き、テオドーラ皇后の途方もない話について印象に残ったエピソードを簡潔に言ってみましょう。

（注意！この文章のイタリア語版は[解答欄](#)に載せてあります。）

テオドーラは、西暦 497 年コンスタンティノープル（現イスタンブール）で卑しい身分の家庭に生まれ、少女時代に父親が亡くなった。哀れな娘テオドーラは、彼女同様に若く美しい姉妹と共にやむなく踊り子になったが、当時この仕事は売春婦とほぼ同じ意味を持っており、恥ずべき仕事だった。しかしその美貌に加え、とても魅力的なテオドーラは高貴な身分のエチエボロ・ディ・テュロスの愛人にうまく収まり、彼がリビアの統治者となった際、共にかの地へ赴いた。その後エチエボロに捨てられたテオドーラは一人でコンスタンティノープルに戻る決心をし、そのために再び売春婦の仕事を始めた。旅の途中エジプトのアレクサンドリアに滞在した折り、彼女の人生の大きな転換期となる出会いがあった。司教テモテ三世がテオドーラをキリスト単性論派へと改宗させたからだ。この派はイエス・キリストを人間の身体を借りた神であるとみなしていた。（訳者註：キリストの人性はこの世に於いて神性と融合し、単一の神性を備えた存在であると言う考え方）テオドーラは改宗後文化的教養と知性を磨き、522 年にコンスタンティノープルに戻ると、彼女の美貌だけではなくその強烈な個性のために皇帝ユスティニアヌス一世の甥であるユスティニアヌスの目に留まった。テオドーラより 20 歳も年上のユスティニアヌスは、彼女を愛人として選び、高

貴な女性に仕立てることでその卑しい過去を消そうとし、遂には彼女と結婚する決意をするまでに至ったのである。しかし叔父叔母である皇帝夫婦はこの結婚に強く反対し、叔母の死後になってようやくユスティニアヌスは、叔父が老齢化し、物事を決められないことに付け込んでテオドーラと結婚できるように法律を変えさせたのである。527年4月4日夫ユスティニアヌスの戴冠と共に皇后になるとテオドーラはすぐに国政に携わる意向を示し、こうして夫の決定すべてに影響を与えたのである。コンスタンティノープルで勃発した民衆の反乱を流血によって鎮圧させたのはまさに彼女だ。そして正教徒であるユスティニアヌスによって迫害されたキリスト単性論派たちを陰で助け、私室の秘密部屋に12年に亘り単性論派の宗教者を匿っていたのもまた彼女だった。ゴート族からローマを解放するためにイタリア国内での戦いを唱え、二人の法王を支援したのもやはり彼女だったのである。テオドーラは548年に51歳で、おそらく癌の病で亡くなり、コンスタンティノープルの聖アポストリ教会に埋葬された。当時の歴史家は彼女のことを残酷で、強欲、また陰謀を張り巡らして宮廷の権力者を追放したり、強請ったりするほどの策謀家の女として描写しているが、確かにその破天荒な人生において凡人とは違った能力を生じさせる術を心得た、昔の数少ない女性の一人だったのである。

14. [ビザンティン美術に関して...](#) [ビザンティン美術のこれら3作品のタイトルを推測してみましょう。](#)

15. テオドーラ皇后のモザイク画とインターネットで見つけたビザンティン様式の他の作品とを比較してみましょう。

ビザンティン様式の特徴はどのようなものですか？しるしをつけてみましょう！



eBook で [ビザンティン美術に関する画像ギャラリー](#) を 見てみましょう... 他の [画像ギャラリー](#) は全てこのしるしがあります。

◆ [2. イエス・キリストの降誕](#)

2. 動詞の現在形を挿入して、文章を完成させましょう。

この作品は“イエス・キリストの降誕”と題されており、寸法 200x185cm の大フレスコ画である。パドバのスクロヴェーニ礼拝堂の中にある“イエス・キリストの生涯”を描いた一連のフレスコ画の一部である。エンリコ・スクロヴェーニからの依頼で作者のジョット・ディ・ボンドーネが 1303 年から 1305 年にかけてこの絵を完成させている。注文主のスクロヴェーニはパドバのとても裕福な銀行家で、慈悲の聖母マリアにこの非常に美しい礼拝堂を献じるのである。

3. この絵に描かれている人物が誰だか分かりますか？それは誰でしょう？又その理由を挙げましょう。彼らを区別する図像学上の特徴はどのようなものでしょう？それについて話し合しましょう。

4. 質問に答えましょう。

6. 描写されている人物の名前を絵に記載しましょう。

7. 一緒に話しましょう。

歴史の話を少しばかり...

イタリアではクリスマスに家庭や公共の場所でイエス・キリストの降誕を表すプレゼーピオを飾る伝統が古くから続いている。通常プレゼーピオは小さなフィギュリンを飾って表現されるが、時には人間、即ちこの聖なるできごとを甦らせようとイエス・キリストや聖ヨセフなどの役を演じる大人や子供たちが、キリスト降誕の場面を表すこともある。

歴史上最初のプレゼーピオは、中部イタリアに位置するリエーティ県の小村グレッツォで1223年クリスマスの夜に聖フランチェスコが催した、まさしく人間プレゼーピオだった。アッシジの聖フランチェスコ教会大聖堂に聖フランチェスコの生涯を物語る大フレスコ画群を描いたジョットは、1295年から1299年にかけてこの最初の人間プレゼーピオをまさにグレッツォのプレゼーピオと呼ばれる場面に描いたのである。その場面は見事な写実技法で描かれているので、当時を物語る貴重な資料にもなっている。

9. テキストを読んで、文章を完成させましょう。

イエス・キリストの降誕

ジョットは（ルカやマタイの福音書から着想を得た）“イエス・キリストの降誕”の古い図像画を描写するよりも物語として表現しようとして独創的な方法で描き出した。この場面の主役や脇役の人物像は様式化されたものではなく写実的に描かれており、そのしぐさや顔の表情、動きはごく自然である。加えて、オブジェやその時代独特の衣服のように細部に亘る描写が物語性を濃くしている。休息している聖ヨセフの清々しく、夢見るような表情や、とりわけ赤子イエスに向けた聖母マリアのやさしく愛情にあふれた表情は、それまでの厳粛で動きのない宗教画とは異なり、この聖なる逸話に人間的で現実的な趣を与えているのである。

10. このフレスコ画をよく見ましょう。イエス・キリストの降誕の話がどのように表現されているのでしょうか？ジョットが選んだ絵画様式はどれでしょう？

11. 美術専門用語を使って話しましょう... 次の文章を読み、枠内の言葉を用い何について語っているのかを書きましょう。

遠近法について...

中世の美術、特にビザンティン美術において空間は人物像を囲む平らな背景としてしか表されておらず、奥行き描写は為されていない。しかしながら図案を通して絵の中に奥行きがあるような錯覚を創り出す考えがジョットと共にイタリア美術の中に生まれた。尤もジョットは幾何学様式の法則を用いていない。従って彼の作品には奥行きがあるものの、それは直感で感じるものであるから正確ではない。

15世紀の初頭になって初めてフィレンツェの偉大な建築家フィリッポ・ブルネッレスキが絵の中に空間を正しく表現できるように幾何学的、数学的基準となる明確な法則をまとめたのである。これ以降絵の中の空間や人物のポーズ、建物の写実的描写がイタリア絵画の基本的要素となっているのである。



13. スクロヴェーニ礼拝堂にある他のフレスコ画を見て、その中から一作品を選びどういった絵なのかを表現してみましょう。

14. 様式についての問題です！よく聞いて、正誤を答えましょう。そしてテキストを読み、自分の答えをチェックしましょう。

ジョットの革命

ジョットは13世紀後半から14世紀前半にかけて絵画やフレスコ画、タブラローを数多く手がけた画家で、その絵は革命的だと考えられている。何故なら不変の絵画様式の法則に従って常に宗教的主題のみを表現していたビザンティン美術の時代が長く続いたあとに、ジョットは初めて写実的要素を絵の中に取り入れたからである。

ジョットは場面の人物を、更に宗教上の人物像をも一層人間味あふれるものにし、人物像の身体に量感を与え、又顔つきや表情にこの場面に生きていると言う心理的瞬間を映し出したのである。

加えてジョットは直感で見てとれる遠近法を通して絵の中に空間をもたらし、従って背景の風景や建物は象徴的だけではなく現実的なものとなり、その空間は人が住める場所となっている。ジョットと共に始まり、他の多くの芸術家たちによって取り入れられたこの絵画様式の表現法は新しくて深い精神性の誕生を私たちに明かしてくれるのである。

15. これらの2枚の絵を比較しましょう。どちらがジョットの作品でしょう？その理由は？

◆ 3. 貢の銭

2. この場面は何を表しているのでしょうか？推測してみましょう。
3. タイトルや作家名など、空白欄を埋めてデータを完成させましょう。
4. 文章を読んで、質問に答えましょう。

“貢の銭”は、フィレンツェのサンタ・マリア・デル・カルミネ教会内のブランカッチ礼拝堂のためにマザッチョが1425年頃に描いたフレスコ画である。1424年頃裕福な絹商人フェリーチェ・ブランカッチが、一族の守護聖人聖ペテロの生涯を描いた大フレスコ画群を当時フィレンツェで名を馳せていた画家マゾリーノ・ダ・パニカーレに注文した。しかししばらくしてマゾリーノがハンガリーへと出立したので、彼の若い助手マザッチョが引き継ぎ一人で仕事を続けたが、1428年にこのフレスコ画群を完成させることなく彼はローマへと旅立った。

1436年注文主のフェリーチェ・ブランカッチがフィレンツェから追放されたので、このフレスコ画群制作は長きに亘り中断されたままだったが、1480年遂に別のフィレンツェの画家フィリッピーノ・リッピにより完成したのである。

5. このフレスコ画は何を物語っていますか？場面を注意深く見て、あなたが分かった人物を、又その人が何をしているのかを表現してみましょう。
6. この物語は全て同じ場面に描写された三つのエピソードに分かれています。これらのエピソードがあるのは絵の中のどこでしょう？枠内の言葉を使って答えましょう。
7. エピソードの記述を再読し、話を順序正しく並べましょう。どのエピソードから話は始まっていますか？
8. 自分の言葉でこの場面の背景や雰囲気表現してみましょう。
9. 誰でしょう？人物像の記述の欄に名前を書きましょう。
- 11.

貢の銭

“貢の銭”はイエス・キリストの奇跡の物語である。カファルナウムの神殿に入るために収税吏がイエス・キリストやその弟子に貢の銭を払うように求めた。イエス・キリストは金を持っていなかったため、弟子のペテロに魚の口の中から銀貨を見つけさせたのである。

マザッチョはただ一つの場面にこの奇跡を描いている。そのために同時に展開しているように見えるがしかし、金を要求する収税吏とペテロに話しかけるイエス・キリスト（中央）、そしてイエスの言ったとおりに魚の口の中に金を見つけるペテロ（左側）、収税吏に貢を払うペテロ（右側）と言った三つの異なる瞬

間を示す三つのエピソードの中にこの奇跡を表現したのである。

更に、これらの三つのエピソードは順を追って起きているのではない。場面中央では奇跡、即ち物語の中で一番重要な瞬間で時間的順序では二番目のエピソードの金の発見と言う奇跡ではなく、弟子たちと収税吏と一緒にイエス・キリストの姿が描かれている。絵を観る者に背を向けている収税吏は神殿の入口を右手で指しており、顔は影に隠れ、概して表されるように悪魔のようなネガティブな横顔をしている。

イエス・キリストはペテロの方を向き、説得力のあるしぐさで彼に湖へ行けと言っている。ペテロはイエス・キリストの言葉に驚いた様子で眉を寄せ、今耳にしたことを確かめようと彼もまた湖の方を指している。

ペテロの身振りは絵を観る者の視線をも次のエピソードへと向かわせる。つまり奇跡のエピソードだ。このように収税吏の身振りも最後のエピソード、神殿に入るために貢を払うエピソードへと視線を向けさせるのである。

従って、奇跡は副次的な位置に置かれている。何故ならマザッチョは奇跡ではなく、ペテロのイエス・キリストへの忠誠心、即ち師の言葉に驚いたとは言えその命令を実行すると言う信仰の物語の重要な趣旨を強調したかったからだ。

マザッチョとルネッサンス初期

マザッチョはルネッサンス美術を始めた画家の一人だと考えられており、その理由は“貢の銭”のフレスコ画の中によく見てとれる。まずこのフレスコ画の場面が自然観察をもとに構成され、従って風景は写実的で右側の建物も当時の建築物そのままであることを考えてみよう。更に遠近法を通して完璧な表現が為されている。イエス・キリストはフレスコ画の中央に位置し、弟子たちのグループの真中にある。彼はこの場面の精神的中心人物であり、又透視図の中心であり、こうして彼は自分の周りの空間を一つにする場面の要となっているのである。そこに表された人物像は強く特徴づけられたポーズや容貌に写実的要素が見られ、表現力の大変豊かな視線やしぐさをしている。又人物それぞれが明暗法によりはっきりとした輪郭の形態美を見せているのである。事実マザッチョは、壮大な彩色塑像を思わせるほどの可塑性を各人物に与えようとして光と色彩の組み合わせを通じて素早く、そして正確にその姿を作り上げたのである。

従ってマザッチョの絵はそれまでの美術とは完全に異なっている。実際彼が中世の美術から取り入れたのは、同じ場面の中に同時代のエピソードをより多く物語れるための語りの手法だけだったのである。

14. “貢の錢”に見られる中世の美術とルネッサンス美術それぞれの特徴は何でしょうか？テキストを再読し、下の言葉を用いて表を完成させましょう。

一点透視図法

1416年フィリッポ・ブルネッレスキは一点透視図法を発明した。これは絵画や彫刻(薄肉彫り)の場면을現実の世界にだまし絵的に作りだすための表現法の一つである。

一点透視図法では中心となる点の一つだけある。それは全ての幾何学的なラインが集束する要(或いは消失点)であり、このライン上に比例しながら建物や人物の像が描かれていき、こうして立体的な空間効果を作り上げるのである。

空間を表現するこの新しい方法でブルネッレスキは15世紀初期の美術革命に大いに貢献し、マザッチョやドナテッロなどフィレンツェの多くの若い芸術家たちに影響を与えたのである。マザッチョとドナテッロは自分の作品にこの一点透視図法を用いた最初の芸術家で、このことからブルネッレスキと共にフィレンツェルネッサンスの父とみなされている。

17. ブランカッチ礼拝堂にある別のシーンを描いたフレスコ画をよく見て、マザッチョの絵画技法の各要素についてその特徴を挙げましょう。

18. 謎めいた人物像... 弟子ペテロです。質問に答えてみましょう。次にこの文章をよく聞いてこの人物についてもっと知りましょう。

使徒ペテロはイエス・キリストの弟子であり、キリスト教と言う新しい宗教を広めるために選ばれた門徒である。ペテロは紀元前一世紀にガリラヤ(現イスラエルとヨルダン川西岸の間の地域)に生まれ、本名はシモン、イエス・キリストと出会う前は漁師だった。イエス・キリストと出会った日はまさにシモンが夜通しの漁を終え船で帰る途中のことだった。その日シモンは何も釣れず、その彼にイエス・キリストは共に漁に戻り、道中神についての話を聞くように勧めた。そして信じられないことにシモンや他の漁師たちは大量の魚を釣ったのだった。シモンはこの奇跡に感服し、イエス・キリストに従うことを、そして今後は“人を釣る漁師”になることを決心した。実際彼はイエス・キリストの12人の使徒のひとりと言うだけでなく、最も重要な使徒になったのである。イエス・キリストがシモンの名前をペテロと変えさせたのは自分の教会、即ちキ

リスト教のコミュニティーの礎pietra(**pietra**は石の意)となるのはシモンであると決めたからだ。ペテロはイエス・キリストに追随し、師が磔刑に処され亡くなるまでその人生のあらゆる出来事に居合わせた。イエス・キリストの死後、ペテロは12使徒のグループを指揮し、キリスト教思想を広め、奇跡や治癒を行いな

がら人々をこの新しい宗教に改宗させ続けた。キリスト教思想の伝播のための長旅はペテロを中東の多くの町での唱道へと導き、こうして彼は残酷無比な皇帝ネロ統治下の西暦 54 年にローマへと辿り着いたのである。多くの困難に会いながらもローマでペテロはキリスト教コミュニティーを創立したのだが、すぐに皇帝ネロはキリスト教信者の迫害を決め、全ての信者を殺害させようとした。ペテロも捕らえられ、彼はイエス・キリスト同様に磔刑での死を望んだが、師よりも下位であることを見せたくて逆さまに磔られた。言い伝えによるとペテロの殉教は西暦 64 年から 67 年の間の 7 月 29 日に当時の皇帝ネロの円形競技場で行われたと言う。そこはこのような“見世物”が催された場所で、後の現サン・ピエトロ大聖堂の辺りだ。時代が下り 4 世紀になると、皇帝コスタンティヌスはペテロが殉教したまさにこの地に聖ペテロを祀った最初の教会を建立させ、6 世紀に現在私たちが目にするような大聖堂が再建された。事実ペテロの古い墳墓は 1939 年にこの聖堂の下で発見されたのである。



20. マザッチョの描く人物像に似た彫刻を同時代のフィレンツェの他の芸術家たちが制作していますが、それはどのようなものでしょう？ドナテッロやギベルティ、ナンニ・ディ・バンコ、ミケロツォの彫刻をインターネットで検索して、“貢の銭”の人物像と比較してみましょう。どういう点が似ていますか？

◆ 4. プリマヴェーラ

2. この作品についてのデータ欄に間違いがあります。次の文章を読んで、間違いを見つけましょう。

サンドロ・ボッティチェッリは、かのフィレンツェの領主ロレンツォ・デ・メディチの一番年若の従兄ロレンツォ・ディ・ピエルフランチェスコ・ディ・メディチの依頼を受けてこの絵を描いた。寸法 203 x 314cm のこの絵は 1482 年頃に板木にテンペラ画で描かれ、あの大変有名な“ヴィーナスの誕生”と共にフィレンツェ近郊にあるメディチェア・ディ・カステッロ邸に飾られた。現在これらの両作品はウフィツィ美術館の同じ部屋に展示されている。

4. この絵の解説を読んで、人物名を確認しながらその名前を絵の下に書きましょう。

5. 絵をよく見て各人物の正しいポーズを選び、枠内の動詞を使って文章を完成させましょう。

6. どのようにして人物を見分けるのでしょうか？左列にある人物と一致する画像の特性とを結び付けましょう。

7.

プリマヴェーラ

この絵の場面は昔から多くの研究者を魅了し、時に研究者間で多くの異なった解釈が為されてきた。今日最も説得力のある解釈はこの絵がロレンツォ・デ・メディチとセミラミデ・アッピアーニとの婚礼の際に依頼されたものであり、従って結婚の寓意ではないかと言う説に由来している。まさにプリマヴェーラ(春)が描かれたのはこの結婚による子孫の繁栄への祝詞を仄めかしているのである。春は自然がその繁殖力を最も誇示する季節であり、場面に登場する花々、例えばオレンジの花は今でも幸せな結婚のシンボルとして、矢車草や忘れな草は愛される女のシンボルとして考えられているからだ。

場面設定はヴィーナスの庭園である。ヴィーナスは森羅万象の、即ちあらゆるタイプの愛の神だが、ルネッサンス期の人々はこの神を博愛の、言うなれば精神性を求めるために人間を本能から解放させる人間愛のシンボルとしても考えていたのである。従ってまさにヴィーナス・博愛がこの場面や絵の趣旨の要であり、ここでの真の主人公なのである。

実際右側では春の西風ゼフュロスがニンフのクロリスを追って息を吹きかけ受胎させている。その時クロリスは、世界中に花をまき散らせながら生命をもたらすフローラと言う花の女神に変身するのである。

ゼフュロスの本能的で精気に溢れた愛はヴィーナス・博愛やキューピッド(愛のシンボル)のおかげで更に完全なものへ、人間をより高め、神に近づけさせる精神的な愛へと変わるのである。

絵の左側では、三美神(ここでは精神性の調和のシンボルとなっている)が表す精神的な愛と、本能と不合理の雲を杖で断固として追い払っているメリクリオス(理性のシンボル)が表す合理性とを祝う場面へと移っているからだ。

従ってポッティチェリは、自分が生きるフィレンツェのその時代の文化への考察を表現できるようにと古代ギリシャ文化の登場人物に新たな象徴的意味を与え、それらを用いることでルネッサンス期に誕生した愛についての優雅で多面的な思想を絵の中に描き出したのである。

神話と寓意のジャンル

古代ギリシャ・ローマ美術の作品研究に由来するこの絵画のジャンルはルネッサンス期に大変人気があった。古代神話の主題は、現実を遠く離れた牧歌的な世界、従って完璧な世界を彷彿とさせたから 15 世紀には非常に好まれていたのである。ルネッサンス期の芸術家たちはこの主題に加えて古典美や審美的調和に強く根付いた理想美を主唱しながら、自分の作品にその世界を甦らせようとしていたのである。

しかしながら古代神話の主題の本来の意味に加えて 15 世紀では同時代の文

化やキリスト教の観点からの他の意味合いも含まれているのである。こうしたことからルネッサンス期の絵画は我々現代人が解釈しにくい複雑な寓意的意味を秘めている場合が多い。

ボッティチェリは、ルネッサンスの新しい観念を寓意的な方法で表現するために神話で使われた主題を用いて古典的理想美の観念を一つにするこのジャンルにおける最も洗練された画家なのである。

9. プリマヴェーラをよく見ましょう。何が理想的で何が現実的でしょう？

10. 様式の問題です！文章をよく聞いて、質問に答えましょう。次にテキストを読んで答えをチェックしましょう。

ボッティチェリ：様式と寓意

ボッティチェリが画家として人生を送っていた時期の他の作品にも見られるように、彼は神話の主題を絵に描いたが、そこでは理想美と調和を自在に取り入れた場面に寓意的なメッセージが込められているのである。牧歌的な雰囲気包まれたヴィーナスの庭園の中で愛の理念はフィレンツェルネッサンスの考え方に沿って表現された。この場面に物語はなく、人物もしぐさや視線を介してお互い関係を持っているわけでもない。それどころかそれぞれが他の人物の存在や他人の行いに気付いていないようだ。人物像の構図（右に一グループ、左に一人、中央にヴィーナスとキューピッド）のバランスがとれ、容姿は皆美しく、エレガントなポーズと愛らしいしぐさをしているが、実体感はなく、身体の線ははっきりとはしていない。このような完璧な姿は非常に綿密なデッサンを用いて作り出されたのだが、このデッサンには不自然ではあるもののよく研究された身体や衣服、草花、動き、ポーズが詳細に描き込まれているのである。黒っぽい背景には木々や茂みがあるものの空間的効果がとても単純化され、殆ど平坦になっているので舞台の背景を思わせる。背景の黒っぽい色彩と対照的に人物像の色彩は非常に明るく、寒色調である。人物の理想的な美しさを際立たせるこのような寒色使いはヴェールの透明感をも作り出している。あちらこちらに鮮やかな色を入れることでこの場面が活気づき、無数のディテールによってもたらされる豊かな色彩効果が強調されるのである。

11. 次の文章を読んで、ボッティチェリの様式を表現するために一番重要だと思われる言葉に下線を引きましょう。次にこの文章が何を表しているのかを自分の言葉で説明してみましょう。

13. プリマヴェーラに別のタイトルを付け、違う解釈をしてみましょう。描かれている人物は誰でしょう？この場面は何を意味しているのでしょうか？

歴史の話を少しばかり...

15世紀初頭フィレンツェを治めていた権力者メディチ一族は当時の芸術や文化活動の多くを支援しながらルネッサンス文化や美術の誕生を奨励した。事実メディチ家、とりわけ国父（Cosimo il Vecchio）と言われたコズィモ（1389～1464）と偉大なロレンツォ（Lorenzo il Magnifico）と言われた彼の孫（1449～1492）は芸術の大パトロンとなり、非常に多くの芸術作品を注文し、古代芸術作品と併せて収集したのである。更にメディチ家は人文主義と言われるフィレンツェ知識人の文化活動を支援した。人文主義とは、ギリシャ・ラテン古典文学の再発見に根ざした人文文学から人文の、即ち人が更なる精神性へと高まって行くために本能抑制を可能にする人間性のことであるが、この概念を取り入れた主義である。人文の概念はルネッサンス期に生じた人間性の再発見を基にし、人間の想像力や知性を強調することで人間を知識の中心に置いたのである。

15. プリマヴェーラとヴィーナスの誕生を比べてみましょう。この2点の絵の類似点は何でしょう？それについて話し合みましょう。

◆ 5. モナ・リザ

2. 枠内の言葉を使って文章を完成させましょう。

モナ・リザは1503年から1516年の間にレオナルド・ダ・ヴィンチがポプラの板木に油絵技法を用いて描いた肖像画のタイトルである。サイズは77x53cmで現在パリのルーヴル美術館に展示されている。この絵を依頼したのはおそらく、肖像画に描かれている女性モナ・リザの夫、フランチェスコ・デル・ジョコンドであろう。

3. この肖像画についてどう思いますか？どうして大変人気があるのでしょうか？又どうして謎めいていると考えられているのでしょうか？推測してみましょう。

5.

モナ・リザ

モナ・リザは描かれた女性の美しさの先にある謎めいた魅力で有名である。まずこの肖像画の謎に包まれた話から始めることにしよう。何故ならレオナルドは死ぬまでこの絵を手放すことはなく、従って注文主フランチェスコ・デル・ジョコンドに引き渡すことはなかったからである。レオナルドがこの絵にかくも執着していた理由については多くの仮説が生まれたが、確かなものは何もない。明らかにモナ・リザの絵は非常に独創的であり、当時の他の肖像画と異なっている。当時は多少なりとも重要と言われる人物が生きている瞬間を不滅に

する目的で肖像画は描かれていたが、このモナ・リザの絵は実物を生き写した肖像画である。ごく自然なポーズや眼差し、微笑みがこの女性の心を、彼女の奥深く近づきたい感情を、そして彼女の人間性の謎を映し出しているのである。

モナ・リザの肩越しに描かれた風景も又（想像上の風景か、おそらくレオナルドに馴染みのトスカーナかロンバルディアの田舎の短縮画であろう）写生画のようで不安定で謎めいている。青白い霧が風景を覆ってその輪郭をぼやけさせ、事実モナ・リザを自然全体の、又自然の一部にすることで彼女と自然の輪郭線を溶け合わせているのである。しかしながらモナ・リザは自然の一部になったことを苦悩するのではなく、落ち着いた様子で微笑んでいる。何故なら彼女は自然の神秘を知り、それを支配できるような気がしているからである。モナ・リザの口元に浮かんだ微笑は実際のところ喜びの表現ではなく、ルネッサンス期の人間が遂に自分たちの生きている世界を認識できるという自覚の表現なのである。

6. 他の表現で言ってみましょう。左列の文章に一致する表現を右列から選びましょう。
7. モナ・リザについてのこのような解釈に賛成ですか？他の解釈を知っていますか？この絵の謎はどのようなものだと考えますか？ 話し合みましょう。
8. モナ・リザの顔をよく見て、表現上あなたが一番適当だと思う形容詞を選びましょう。

肖像画

肖像画のジャンルは古くから存在し、芸術の世界では広く普及していたが、ルネッサンス期において大成功を収めた。事実この時代、個人的な肖像画（絵や彫像、メダルなど）も、又有名人や宗教作品の大作を注文する多少なりとも重要な人物の肖像画も非常に人気を博したからだ。ルネッサンス期の肖像画は他の時代の肖像画とは区別される。何故ならルネッサンス期には絵に描かれる人間の本質に大きな注意が払われており、従って画家は自分の技量を用いて対象人物の実際の容貌を写し描くだけでなく、その人物の主な特徴を捉えなければならなかったからである。このことからルネッサンス期では肖像画の中に象徴的要素（例えば忠誠のシンボルである犬が描かれ、その人物が忠実であることを伝えている）や、肖像画の人物の名声を暗に示す理想的な要素（有名な古代彫像のようなポーズと顔つきなど）が常に現れるのである。

10. 様式の問題です！テキストを聞き、欠けている言葉を用いて文章を完成させましょう。

モナ・リザの謎の大部分は、レオナルド自身が編み出し、使用した特殊な絵画技法に由来するものである。即ちぼかし画法である。この絵画技法はごく軽いタッチのキアロスкуроを通して人物像の輪郭とその輪郭の細部とを徐々にぼかしていく技法である。画家は様々な色彩のグラデーションを塗り重ねていき、こうすることで風景は光から影へと、即ちキアロスкуроへと殆ど知覚できない形で徐々に変化していくのである。ぼかし画法のおかげでモナ・リザの顔の輪郭線は柔らかくぼかされ、表情に変化をもたらされている。従って我々はモナ・リザを観る度にどこか違った表情をしているように思うのである。こういうことからモナ・リザの肖像画は実物を生き写した絵なのである。絵の中で一番手が加えられた微笑みの部分は特別だ。それはよくできており、レオナルドが人体解剖を行って得た深い知識の表れだからだ。しかしそれだけではない。観る者を魅了する神秘的で変わりやすい効果がぼかし画法によってその微笑みにもたらされたからでもある。

風景についても同じことが言える。レオナルドが風景描写の中に自分の世界観や、同時に距離や天気についての科学的洞察を表現できたのはやはりぼかし画法のおかげである。実際レオナルドは遠景を描く際に、近くの図像には鮮明な色を、遠くの図像には少々不鮮明な青みがかかった色を使っている。遠景の図像は青みがかかった霧に包まれぼんやりとした輪郭をしており、図像同士が溶け合って空間を更に大きくさせているようだ。従って絵の背景はそこに描かれたものよりも更に広大な空間を背にしているようだ。事実レオナルドは観る者を単なる風景の前ではなく、自然の神秘に包まれた世界全体の前に立たせようとしたのである。

11. テキストを再読し、モナ・リザの絵に見られるぼかし図法の効果を書きましよう。

14. 謎めいた人物像... ^夫モンナ・リザ・ゲラルディーニ 彼女に関する話をインターネットで検索し、話し合いましよう。

15. 肖像画の中の女性に別のアイデンティティーを与え、彼女について想像してみましよう。

16. レオナルドの別の絵を選び、モナ・リザと比較してみましよう。その肖像画にも同じような謎があると思いますか？そう思うなら、それはどうしてでしょう？

6. トランプ詐欺師

3. 誰ですか？次の言葉を使って文章を完成させましょう。
4. 誰が何をしているのでしょうか？左列の人物と一致する右列の文章を選びましょう。
6. 三人の人物の衣服やしぐさ、顔の表情をよく見て下さい。それらはどのようなものでしょう？
7. テキストを読みましょう。

トランプ詐欺師

カラヴァッジョの初期のこの作品は、ローマの注文主の中でも大変重要な人物の一人で、美術作品の愛好家であり収集家でもあるフランチェスコ・マリア・デル・モンテ大司教のために描かれたものである。デル・モンテ大司教はカラヴァッジョの絵を大変好んだが、独創的なテーマを驚くほどリアルで芝居がかった描写で表したこの絵をとりわけ気に入っていた。実際カラヴァッジョのこの絵は“生きているような”場面となっている。そこでは少しばかり世間知らずの若い金持ちが一人の若者を相手にトランプに興じているのだが、若い金持ちは相手が仲間と共謀し、いかさまをしていることに気が付いていない。事実傍に立っている詐欺仲間が盗み見ており、金持ちの若者の手にあるカードを友人に明かしそれとは分からない方法でいかさまのサインを送っている。だから詐欺師の若者は相手の動きを待っている間にそれとは分からない方法でこっそりと後ろポケットから勝ちカードを出し勝負に勝とうとしている。

カラヴァッジョの天賦の才は一瞬を捉えられることに、即ちその場面の登場人物が生きているように見えるほど張り詰めた瞬間を作り上げられることにある。例えば詐欺仲間の擦り切れた手袋がその人物について多くのことを明かしているように、登場する人物のしぐさや顔の表情、衣服の細部を通してその人物の心理状態を描き出せる彼の能力は驚異的である。場面のリアリティと演劇性によってこの絵を観る者は賭け事に耽る危険性を考えざるを得なくなるのである。

風俗画

日常生活(例えば仕事や祭り、市場など)の場面を忠実に表現し、ありふれた人間も描くが、風景や静物も描くこのような絵のことを風俗画と言う。オランダで誕生し、その地で広く普及した風俗画は、イタリアでも16世紀以降大いに人気を博した。

8. 様式の問題です！“カラヴァッジョの自然主義”のテキストをよく聞いて、正しい答えを選びましょう。
9. 設問8のリスニングテキストをよく読んで次のことをしましょう。

a.カラヴァッジョの絵画様式の主要な要素を指している言葉に下線を引きましょう。

b.これらすべての要素（空間処理、構図、色彩の明度、表現性、身振りによる表現など）がこの絵の場面に効果をもたらしていると思いますか？

カラヴァッジョの自然主義

カラヴァッジョの絵画様式の主要な特徴は細心の注意を払い自然を観察し、美しいものだけでなく、醜いものや不格好なものをも絵の中に取り入れたことである。イタリアの最初の、そして最も重要な静物画家カラヴァッジョの自然主義がこの様式に見られるのである。

トランプ詐欺師では、台に掛けられたテーブルクロスや人物の衣服の飾り、とりわけ若い詐欺師の帽子の羽根に見て取れるように、賭博台と賭博師たちは細部に亘り入念に描かれている。オブジェを描く際のこの優れた技芸力に加えて、カラヴァッジョの並はずれた表現力がある。絵を極度にリアルにそして演劇的にしている人物の表情や身振りを通して彼はその人の精神状態と人間性を表現できるからである。絵を観る者はその場面で何が起きているのかすぐに分かり、感情を揺さぶられてその場に巻き込まれることになるのだが、それはカラヴァッジョが現実と絵の中の空間との違いを無くすために幾つかの技法を用いたからでもある。例えば若い詐欺師がベルトに刺し持った短剣は観る者の身体の中に入り、絵に描かれた現実と観る者の現実とを結び付けているようである。

絵に登場する三人の人物の配置やテーブルの上のサイコロの箱はこの場面の空間的効果を作り出しており、又詐欺同士間で交わされる目の合図からもその効果が強調されているのである。

この場面が設定された場所はオブジェや人の描写とは反対に余り詳細には描かれていない。上から左へと届く光の束がむき出しの壁に当たっているだけである。光も又写実的な方法としてカラヴァッジョがよく使うもので、人物像を包みその姿や表情、しぐさを鮮明にする効果があるから絵の中の幾つかの最重要点に集中的に降り注いでいる。更に光が通過するところは明るい色になり、色彩のグラデーションが段階的に変化するのである。

12. トランプ詐欺師に登場する人物の話を想像してみましょう。

13. カラヴァッジョが同時期に描いた他の作品“女占い師”とトランプ詐欺師を比較してみましょう。似ているところはどこでしょう？ 話し合みましょう。

14. カラヴァッジョが円熟期に描いた後期の作品を選んでみましょう。その絵のデータを調べ、絵のテーマを述べてトランプ詐欺師“と違うところを書きましょう。



◆ 7. キリスト昇天祭の日の御座舟の出立

4. この絵の中にはヴェネツィアを象徴する建造物があります。枠内にある名前を入れて文章を完成させましょう。次にそれらがどこにあるのかを示しましょう。
6. 絵をよく見て、どう思うか、形容詞一つだけを使って書きましょう。

キリスト昇天祭の日の御座舟の出立

写真に見られるようにカナレットはキリスト昇天祭の日にサン・マルコ広場を背にしたラグーナを描いた。ヴェネツィアと海の婚礼を祝うための特別に重要な祭事と考えられたこの祝祭は、かつて御座舟に乗ったドージェ(総督)が何十隻ものゴンドラを従えてサン・ニコロ教会の前のラグーナへ行き、奉納の指輪を海に落としていた大昔の儀式に由来している。このような儀式を行うことでヴェネツィアは海と“結婚していた”のである。即ちヴェネツィアは決して解けない絆で海と結ばれたと言うことだけでなく、“海”の花嫁なのだから当然アドリア海で最も力を持つ街であることをも宣言していたのである。

カナレットは東洋風の館が並ぶラグーナの街の魅力を、又詳細な描写を通してこの儀式の壮麗さと厳粛さを絵の中に定着させながら、御座舟がまさに岸壁から離れようとしている瞬間を無限のものにしたのである。前景にはゴンドラが浮かぶラグーナが描かれているが、そこには水に映った影だけでなく、金色に輝く豪華な装飾や仮面付きマントを羽織った貴族たち、船をこぐ船頭たちまでもが見てとれるのである。キャンバス全体が増えていく色彩は素早いタッチで施され人物像をはっきりと浮き立たせている。こうして観る者に祝祭の陽気なざわめきを想像させるのである。

風景画

常に絵の背景にある風景は16世紀に、まず北方ヨーロッパで、それからイタリアで主役となった。時代が下ると芸術の中に自然を味わう感情移入が、即ちその描写が増えていき、この風潮は**真景画**(ヴェデュティズモ)と言われる芸術思潮が誕生する18世紀まで続いた。真景画的絵画はもっぱら“風景”を、つまり田舎や町の景色を描いたものであり、そこに人がいたとして大した役割を担っていない。真景画はとりわけ魅惑的な街ヴェネツィアで広く普及し、その最大の解釈者の一人としてカナレットを擁したのである。しかしながら描写風景が常に写実的だと言うわけではない。多くの絵の中で画家は現実の風景と思いつきで頭に浮かんだ風景とを度々混ぜ合わせているからだ。この“風景”画を**奇想画**(カプリッチョ)と言う。

7. 絵の様式をよく見て、形容詞を一つだけ用いこの絵についてどう思うかを書きましょう。
8. カナレットがこの絵に表した風景にはどのような役割があると思いますか？その役割と理由を話し合しましょう。
- 9.

カナレット：光と色と遠近法

カナレットの他の真景画同様にこの絵もヴェネツィアの景色を単純に複写したのではなく、祝日の街を生き生きと魅惑的に描いた肖像画であり、観る者が思わず感情移入をしてしまう絵である。

実際この絵の前に立った者はひどく込み入った遠近法の線と目を眩ませるような強烈な色使いが施された場面を見ることになるからだ。こうした手法により場面の主役御座舟が絵の右奥に描かれ、中央ではないにもかかわらず絵を観る者は必然的にそちらへと目を向ける。線と光のこの交錯は御座舟の金色と鮮やかな赤色に圧倒されているものの、簡潔なデザインと洗練された光と影のコントラストに安定感を保っている。カナレットは非常に巧みに光を使い金色に輝く反射を水面やゴンドラに作り出した。こうすることで絵に表された瞬間、即ちキリスト昇天祭の始まりに暗示めいた不思議な特徴を与えたのである。事実彼は光を知り尽くしていたのである。光は色調を輝かせ気品あるものにし、祝日の雰囲気を作り出している。そして絵の中で物語を語っており、数多くの入念に描かれた細部を浮かび上がらせているのである。

10. 練習9のテキストをよく読み、この絵の様式について美術専門用語を使って書いてみましょう。
11. カナレットの美術についての批評を読み、質問に答えましょう。
12. この絵の中に入り、キリスト昇天祭に参加していると想像してみてください。さてあなたは何をしますか？どこへ行きますか？何を着ますか？お友だちに話してみましょう。
13. カナレットのこの絵とフランチェスコ・グアルディ、アントニオ・ホーリ（或いは同時代の他の画家）の絵とを比較してみましょう。どこに類似点と相違点がありますか？(○)(×)をつけましょう。



8. 休息

5. テキストを読んで、次の叙述を整理しましょう。

休 息

この絵の主題は田園であり、畑で農作業をする人々の生活に深く関わるもの

である。ファットーリは昼過ぎの、一日で一番暑い時間に一人の農夫が重労働の手を休めている瞬間をキャンバスに描き出している。

場面の中では田園や農夫、動物、海など全てが不動で固定され、黙している。この絵を観る者は、午後の暑さや仕事から解放された安堵感、農夫が作業をしている遠くの田園を覆う孤独や静寂を感じるような気がするのだ。

中央のいかめしい牛と下方に座る農夫がこの場面の主人公となり、背景に僅かな空間を残してこの絵の前景を占めている。農夫の顔は影に隠れてその表情は分からないが、彼の頭に去来するいろいろな思いが、言うなれば自然の中でしか感じられない思いが伝わってくるのである。

テーマの単純さとは対照的に、ファットーリの描写は静けさの中で静止した場面がもたらす崇高さに触れている。こうして観る者は必然的に男の重労働や自然との関わり、農作業の尊さについて考えるようになるのである。

6. この農夫の一日を想像してみましょう。彼に名前を付け、彼の物語を思い描いてみましょう。

8. 様式の問題です！テキストをよく聞いて、テキストにはどのようなことが書かれているのか、次の文章に印を付けましょう。それからテキストを読んで、答えをチェックしましょう。

“点描”画

画像は原色の粗い点で形作られている。例えば牛車の赤、海の青、日に照らされる田園の黄、影に隠れた農夫の暗色、牛の明色だ。これらの色はお互い接近することで更に濃度を増しているのである。

背景に薄く塗られた色は、くつきりとはしているが軽いタッチの輪郭で描かれた空間を均一に埋めている。こうすることで全画像は、細部をぼかせる素早い筆遣いと光と影の効果を作り出す緻密な筆遣いで合成するように彩色された各点に合致するのである。

従ってファットーリは点描を自在に操り、自分の考えを表現しているのである。この場面はそこに描かれた農夫の精神状態に関わるものだから各像や風景までも絵全体の構成部分とし、自分の感情を伝えているのである。

こうした理由から空間は、更なる広がりをもたらし静寂の中で静止したように思わせる彩色の水平線ではつきりと描かれているのである。

9. 絵画様式の基本要素に関する美術専門用語をテキストの中から探しましょう。

10. この絵では色彩が“語っています”... 色彩は何を言っているのでしょうか？ 11. これらの色彩の中でどれが原色でしょうか？



14. マッキアヨーリ（色班画派）の絵画に繰り返し用いられる主題は何でしょうか？インターネット上でその作品を見て、どのような主題が好まれているのか次の文に印を付けましょう。

マッキアヨーリ

19世紀の美術アカデミーでは絵画様式の模範や規則に忠実に従ったイタリア絵画をアトリエ内で描くように教えていたのだが、マッキアヨーリの絵画運動はこれを一新しようとするものだった。従ってこの運動に参加した若い画家たちが絵に描こうとした主題はアトリエの外でじかに触れる現実とその瞬間であった。つまり特に光と色に関して本物から受ける印象をよりよく絵に起こすために野外の現実・現時を題材にしたのである。“黒い鏡”と言われる技法を用いることで暗色と明色それぞれの部分の対比が際立ち、図像の輪郭線は取り除かれる。マッキアヨーリ派はその鏡に投影された物を描き出すべく主題を注意深く観察するのである。こうすることにより現実には画家に色彩点描でできた視覚的イメージを生じさせ、そしてこの革新的な絵画技法で画家は自分を取り巻く現実の光景を最高の形で表現できるのである。

◆ 9. 夢

2. 次の質問についてよく考え、話し合みましょう。あなたの考えでは....

3.

夢

“夢”の中には夢に見る愛の光景が描かれている。花咲き乱れる美しい草原から生まれたような恋人同士が腕をからめ空へと舞い昇っている。輪郭線は背景の空と混ざり合うほどに滑らかで軽やかだ。二人の身体に実体感はなく、観る者を現実から遠く離れた世界へといざなう何か超自然的で魅惑的な雰囲気絵が醸し出している。プレヴィアアーティは次第に薄れていく夢と、無意識から神秘的に浮かび出る夢の内容を“シンボル”を通して伝えながら描いたのである。実際絵のこの場面が意味するものはロマンティックで情熱的な愛の象徴であり、咲き乱れる花々もまた愛の象徴だからだ。事実ここでは自然は生きており、夢に現れる愛と生命の謎を共有しているのである。人物像はぼやけて曖昧で、神秘的な夕焼けに赤く染まった塵のようにブロンズ色に輝く光が二人を包み込んでその姿を変えている。従ってこの絵が象徴主義絵画を代表する大変素晴らしい一例として挙げられるのはそのテーマだけでなく描写法に負うところが多いのである。何故なら無意識と夢の世界の探検手段とみなされる芸術において象徴主義の絵画は夢と現実を溶け合わせた絵画であるからだ。

4. “花が話しかけている...” 花ことばを知っていますか？何か（例えば愛情や友情など）のシンボルとなる花の名前を三つ書きましょう。



6. 様式の問題です！文章をよく聞き、欠けている動詞を入れてテキストを完成させましょう。

プレヴィアーティの色彩分割描法（ディヴィズィオニズモ）

プレヴィアーティが夢の光景を表現するためにそれが持つ意味を一層掘り下げられるシンボルを選ぶのだとしたら、彼はそのシンボルの形を描くために色を選ぶのである。プレヴィアーティはとりわけ光輝く絵を模索した。それ故彼は色彩の構成を研究し、彩りにもっと輝きを与えようと、各配色が互いに接近するように、そして可能な限り色彩が目立つようにしたのである。こうした研究から生まれたのが色彩分割描法と言われる特殊な絵画技法なのだが、その発案者の一人がプレヴィアーティなのである。この技法を用いて軽妙な筆致と、お互いに接近しているか、或いは重なり合っている極細の描線（フィラメント）の中に配色が為されており、又このフィラメントによってプレヴィアーティの最も有名な絵画様式“光り輝く塵”のようなものが作り出されているのである。このような色彩分割描法のおかげで色彩が渦を巻いているような効果やとりわけ素晴らしい光の効果が生じ、シンボルの美しさとその意味までもが明らかになるのである。こうしたことから“光の画家”と言われるプレヴィアーティは、審美的且つ知性的に重要な価値を持つ光を自らの絵の中に作り出したのである。

9. “夢”とプレヴィアーティの他の絵“パオロとフランチェスカ”を比較してみよう。

a. 類似点と相違点が分かりますか？これらの絵を見てどういう感情を抱きますか？

b. “パオロとフランチェスカ”の愛の物語を知っていますか？インターネットで検索するか、或いはその話を聴いてみましょう。

パオロとフランチェスカと言う二人の人物は実在しており、彼らの悲劇的な死は作り話ではない。二人の物語が始まった1275年、ラヴェンナの領主ガイド・ダ・ポレンタが娘フランチェスカを、当時リミニで最も有力な一族の息子ジャンチョット・マラテスタに嫁がせようとしていた。その結婚は戦続きの日々に終止符を打ち平和をもたらし、またその地域の二つの有力な家系を強く結び付ける目的に叶うものだった。フランチェスカは若く、美しかったが、一方ジャンチョットはひどい醜男で粗暴だったから両家族はフランチェスカが結婚を拒

むことを恐れて挙式の前に二人を会わせないことにした。そこで両家族は代理人を立てて結婚を取り行なおうと、つまりジャンチョットの代理としてパオロとフランチェスカを結婚させようと考えていた。実際ジャンチョットの弟のパオロは大変な美男子で魅力的だったから、両家族の思惑通りにフランチェスカはすぐにパオロに惹かれ、結婚を承諾した。こうして可哀そうなフランチェスカは理想的な夫に巡り会えたものと信じ、幸せな気分で嫁いだのだが、新居に入り、ジャンチョットと会った時初めて彼女は恐ろしい策略に気が付いた。当初彼女は絶望したものの、ジャンチョットの妻になることを諦めの気持ちで受け入れ、すぐに女の子の母親になった。しかし変わることなく密かにパオロに惹き付けられていたフランチェスカだったから、彼が言い寄り始めるとお互いが当然隠そうとしていた激しい恋愛感情が二人の間で炸裂したのだった。だが二人の逢瀬は何らかの疑いが生じたことで終わりとなり、遂に、パオロが自分の留守に付け込んでフランチェスカに会っている事実をジャンチョットは知らされるのである。だから或る日のことジャンチョットは家を出る振りをし、パオロが現れるのを待ってから秘密の通路を通り家に戻った。そして接吻している愛人二人の不意をついた。嫉妬に狂ったジャンチョットはパオロを剣で刺し殺そうとしたのだが、身を挺してパオロをかばおうとしたフランチェスカを先に刺してしまったのだった。悲劇のあと、両家族はこの恐ろしい話をひた隠しに隠し、忘れさせようといろいろとしたから、私たちが現在この物語を知っているのは偏に詩聖ダンテ・アリギェーリが、パオロとフランチェスカの死から数年後に書いた彼の最も有名な作品“神曲”の中でこのことに触れているおかげなのである。

10. 画家や時代を問わず愛をテーマにしている絵を選んで発表し、次の質問に答えましょう。

11. イタリアや日本で愛を扱った有名な話をインターネットで検索し、自分の言葉でその物語を言ってみましょう。例えばアントニウスとクレオパトラ、ダンテとベアトリーチェ、パオロとフランチェスカ、レンツォとルチアなどです。

◆ 10. 共時性の風景

5.

共時性の風景

絵の中央に見える女性は自分が住んでいる館のバルコニーから顔を覗かせ、正面の館に住むもう一人の女性も同じようにしている。彼女たちが下の道路を

覗き込んだ瞬間に、二人は道路にある騒々しく荒れ狂った生活に巻き込まれるのである。

人の動きに、そして互いに交錯し合う館や人々、オブジェに空間は歪んでいる。絵の中の人物はきちんと描かれてはおらず、その像をすぐには読みとれないのである。何故なら画家が表現したいテーマは人間ではなく、そこにあるダイナミズム（動力）だからだ。

実際バルコニーから覗き込みながら、二人の女性は町の騒々しさと動きの激しい生活の一部に入り込もうとしている。路上で立ち話をしているような彼女たちは通行人や館に囲まれ、こうして二人の思いや言葉が都会の生活の狂乱に混じり合っているのである。従って、同時に生じる数知れないできごとを見ると言うことは人々やカオス、動き、騒音で出来上がった町の活力を表現する方法なのである。

6. 想像してみましょう... 女性たちの居るバルコニーの下の道路では何が起きているのでしょうか？ どうして二人はバルコニーから顔を覗かしているのでしょうか？ 彼女たちは何について話しているのでしょうか？

7. 絵の様式を注意深く見ましょう。次に枠内の言葉で質問を完成させ、その質問に答えましょう。

8.

ボッチョーニの未来主義（フトゥリズム）

絵の中央に大きく描かれ自宅の建物の下の道路をバルコニーから眺めている女性の像は観る者の注意をすぐさま自分に引き付け、絵の中へと誘う。他の図像も又すぐに観る者の視線を捉える。何故ならこれら全ての図像は同時に現れ（これこそ共時性の風景である！）、観る者が二人の女性と一緒に騒音と人々が溢れる通りの活気を覗いているような印象を与えるからだ。

建物や道路、木々や人々が混沌とした状態で描かれ、お互いの図像が交錯し合い、それぞれ違う方向へ傾き、鋭く尖った形態美を表している。過度に傾いた女性の身体により、又観る者の視線が複数の消失点に向かうことによりボッチョーニは上から下へと空間に奥行きがあるような錯覚を生じさせたのである。全て鮮やかで強烈且つ非現実的な色彩は絵のカオスを強調し、特にひととき目立つ青色は図像を互いに混和させ、外界と女性の居る建物の中の世界を一体化するために使われている。従って色彩は絵の中に動きや仕事、騒音、光から生じた街の動力を作り出す働きをしている。図像は現実の部分が感情の追憶と溶け合っているとは言え量感があるので可塑性に富んだ動力となっている。

しかしながらボッチョーニにとって街の動力は混乱を意味するものではなく、未来へと、即ち過去とのあらゆる架け橋（例えば文化や生活様式など）を断ち

切る新しい生き方へと街の成長を映し出すポジティブな活力なのである。結論としてこの絵は、ウンベルト・ボッチョーニが頭角を現した未来派運動の画家たちの考える近代絵画を完璧に表現したものである。

9. これらの原則のもと未来派はイタリア絵画を一新しようとした....

ボッチョーニは*共時性*の風景画を描く際にこの原則を適用しているとあなたは思いますか？ si なら、(参照となる個所をテキストや絵の中で見つけ) それがあるのか自分の言葉で説明しましょう。

11. これらのうちどれが未来派の絵画に最も近い主題でしょうか？



インターネットで絵を検索し、未来派が好んで使った主題がどのようなものなのかを書きましょう。

12. ボッチョーニの絵と未来派の他の画家の絵とを比較しましょう。共通する絵画様式はどのようなものでしょう？又どのような点が異なっているでしょう？

20 世紀のアヴァンギャルド (前衛派)

未来派は表現主義やキュビズムなどと共に 20 世紀初頭に生まれた文化運動の一つで、この運動は“前を”、即ち未来を見ながらその時代の社会や文化を一新しようとしたことからアヴァンギャルドと言われた。アヴァンギャルドにとって芸術は現代思想を表現し、新しい観念を普及させ、社会の見方を変えなければな

❖ *イタリア美術の名作

1. 今まで学んできた作品の中であなたが好きなものはどれですか？その理由は？

2. 今まで学んできた美術作品や画家はイタリアの幾つかの都市とつながりがあります。どの都市なのかを当ててみましょう！

インターネットでこれらの都市を検索し、どのような名作があるのかを見つけましょう。

訳：松永 眞智子

(訳注：本テキストは動詞現在形 *presente* が多く使われていますが、歴史的現在形 *presente storico* の個所は過去形で訳してあります。)